

楽読
(ラクヨミ) Vol.
1,491Raku
Yomi米中貿易摩擦などを背景に、
軟調となった半導体株

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

米国上場の主要半導体株(フィラデルフィア半導体株指数)は、今年4月に史上最高値をつけたものの、5月は一転し、月次騰落率が10年半ぶりの大きな下落となる▲16.7%となりました。

その背景として、米商務省が中国通信機器大手ファーウェイをエンティティリスト(米政府が国家安全保障などに対するリスクと判断する個人・企業などのリスト)に追加したことにより、米政府の認可なしに米国製品・サービスを同社に売却することが禁止されたことや、クアルコムが反トラスト法(独占禁止法)に違反したと米地裁が判断したことなどが挙げられます。特にファーウェイは、スマートフォン市場で約14%の市場シェア(出荷台数ベース、2018年)を持ち、世界の半導体需要の約4%を占めるとされます。そのため、部品のサプライヤーなどへの影響がどこまで広がるのか不透明であり、事態が落ち着くには数カ月を要するとみられます。さらに今後、中国の報復措置がより広範囲に影響を及ぼす場合や、米国による中国への全般的な輸出管理措置などにつながる場合、市場の更なる下押し圧力になる可能性があります。

半導体市場は、WSTS(世界半導体市場統計)によると、2012年から2018年まで、シリコンサイクルに伴う好不況の波がありながらも、年平均8.2%の高成長となりました。特に2017年と2018年は、メモリ市場を中心に電子機器向けの需要が旺盛となり、市場が拡大しました。一方、2019年は、メモリ市場の反動減や、米中貿易摩擦、世界経済の先行き不透明感などから、減速が予想されています。

しかし、車載システムや人工知能、ビッグデータなどの分野で半導体の力強い需要は続く予想されているほか、メモリ市場の在庫調整も徐々に進むとみられます。また、ファーウェイ向けの販売減少は、同社と競合する他社からの需要増加によって、ある程度補われると考えられます。さらに、世界経済は、欧米の金融引き締め姿勢からの転換や、中国の景気刺激策の強化などから、2020年に回復が予想されています。こうしたことなどを踏まえると、半導体市場は、短期的には厳しい状況が続くとみられるものの、中長期的には緩やかに回復するとみられ、半導体株も持ち直す時期と期待されます。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

半導体株の推移

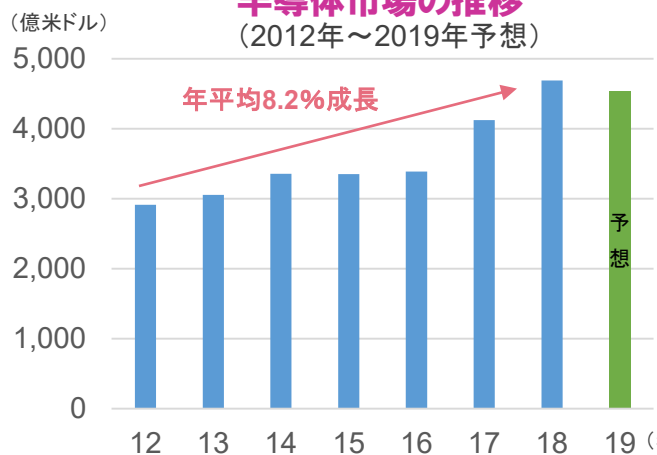
(2018年1月初～2019年5月31日)



半導体株: フィラデルフィア半導体株指数(米ドルベース)
世界株: MSCI ワールド インデックス(米ドルベース)

半導体市場の推移

(2012年～2019年予想)



出所: WSTS(世界半導体市場統計)

(19年2月時点の予想)

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。